

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201229		
法人名	NPO法人 重宝会		
事業所名	グループホームはまかぜ		
所在地	熊本県天草市倉岳町宮田270番地1		
自己評価作成日	平成23年11月28日	評価結果市町村報告日	平成24年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成23年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>狭いスペースではあるが、それゆえに入居者の居室や休憩されている場面も良く見え、その人の動きに応じた支援が出来やすい。周辺の環境に恵まれ、木々や花で季節感を味わうことができる。一人ひとりの暮らし方を全員で考えその人らしい生活ができるよう支援に心がけている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは海と山の双方を一望でき、周辺には最近話題のオリーブ畑が広がっていて、潮と緑の香りのする自然豊かな施設である。玄関入り口にはホームの愛称となっている犬の置物が愛らしく出迎え、戸外と室内には至る所に季節の花が生けられており、アットホームでリラックスできるような空間づくりが伺える。リビングでの入居者と職員とのやり取りや会話・マンツーマンでの食事支援の対応をみても互いの信頼関係が成り立っている。研修会や勉強会への参加姿勢や掲示物・食事・おやつの手作り等、ホームの生業への取り組み意識は、職員のモチベーション能力が高く、ケアの質の向上に繋がっている。今後も高齢者の生き甲斐づくりやケアの啓発に取り組まれることを望みます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあいを理念の一つに入れ毎週月曜日ミーティング時全職員で復唱し、実践につなげるよう心がけている	理念は玄関やリビングに掲示し、毎週月曜日の朝礼時に復唱を行い、職員へ周知徹底している。理念の見直しは旧版が長文であったため、簡潔に短文明確である文章にし、地域密着性を盛り込んだ内容に変更している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている行事は見学等で参加している、敬老会時は地域の高齢者にも参加呼びかけを行い交流している。	敬老会・避難訓練・仮装大会・家族会等地域で行われる行事に参加している。近隣の方々とは畑で作った季節の野菜をお裾分けしたりして、日常的な交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域福祉推進委員会に所属し活動を行っている。小・中・高校生の体験学習も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開き事業所の状況を報告している。その中で出席者に意見を求めサービスにつなげるようにしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行っており、記録として各回の議事録を作成している。運営推進会議で問題が出てきたら、地元の有志の方の率直な意見聞いて課題解決に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	キャラバンメイト等で市の事業にも協力し会議や研修会にも参加している。	天草市と包括支援センターが来所した際には、キャラバンメイトを依頼し、認知症の啓発にも貢献している。行政の担当者との関係も良好である。さらに運営推進会議の結果を報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したり、施設内の勉強会でも取り上げ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修への参加やホームの全体会議の時間を利用して、身体拘束をしないケアについて、個別検討会を行い具体的な内容に関してフォローしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し意識を高め虐待の予防に注意を払っている。		

グループホーム はまかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会に参加した職員の報告を基に勉強会時話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容の変更等は主に家族会で説明し、個々に同意を得ている。契約時は時間をたっぷり内容を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年2回家族会を開き意見をもらえる機会を作っている。面会時も個別に時間を作り意見をもらえるような声かけに心がけている。	家族会を年2回実施しており、その時半年間の報告等を行い、参加者からは希望や要望を出してもらっている。その後、入居者・家族・職員で会食をし、情報交換の場としている。入居者の近況は月に1回、担当者から家族宛に手紙を送り報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的に代表者も管理者も話の出来る位置で業務にあたっており意見は伝達している。全体会時も話し合う機会を作っている。	代表者や管理者・職員は、いつでも顔の見える関係作りが構築されている。職員から意見や要望があった場合は、管理者と代表で対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者も共に働く立場にあり勤務状態はよく把握しており相応の配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受ける機会を多く作り全員の質の向上に努めている。報告する機会をつくり周知を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	天草地区の連絡会を通じ常に連絡を取り合っている。研修会時や忘年会時にも交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の様子を観察しながら情報を収集している。対話の中で希望も聞きだし、サービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は家族との連絡をとりはなしを聞いている。意見や要望を聞くことで信頼関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人を尋ね必要とされるサービスを把握し本人家族と相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、掃除、洗濯物等あらゆる家事や生活の場で共に動けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時面会を依頼したり電話や文章で様子を伝えたり連絡を取り合っている。家族会時も交流を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会時はゆっくりくつろげるよう配慮を行っている。地域行事にも参加し交流できるよう努めている。	帰宅や墓参りなど家族の協力を得て行っている。面会時や食材の買い出し等で以前から親しくしている方とは、ゆっくりした時間が保てるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人達が共にゆっくり過ごせるよう心がけている。食事の席や入浴の順番にも配慮している。		

グループホーム はまかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先を訪問したり家族の面会を受け入れ相談を受けたりしている。家族が遠方に居住している場合も情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な対話の中やケアプラン作成時本人の希望を聞いている。日常の様子や表情で判断することもある。	日頃の関わりの中から、傾聴し仕草などを見逃さないようにして、思いや希望を把握するようにしている。面会時などに家族からも話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や家族の話参考に本人がすぐになじめる暮らしが出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に検討会を開き情報を共有し安心して暮らせる配慮をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人ともに意向を聞いている。アセスメントは職員全員で行い計画の作成につなげている。	ケアプランは勉強会の際にアセスメント様式を職員に配布し、各職員から見た入居者の状態を参考にしてプランを立てている。作成したプランは、職員・入居者・家族に説明し実行に移している。モニタリングや見直しも定期的に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日行っている。申し送り等でも伝達し情報の共有に努めている。月1回の検討会で援助方法を確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊時の送迎も希望により行っている。遠方よりの面会時等には食事の提供も行っている。		

グループホーム はまかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり面会を重視したりしている。自宅とのつながりも大事にし帰宅支援も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ診療を受けられるよう支援している。常に連絡をとり本人の状態をかかりつけ医にも把握して貰っている。	かかりつけ医の診療は原則家族におねがいでいる。ホームに定期的に往診をお願いしている病院もある。双方とも家族との連絡は、密に取りあい情報の共有は出来ている。年に2回病院で心電図とレントゲンを取っており、異状がある場合は家族へ連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を把握し変化がある時は看護職に伝え適切な診療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医やその紹介で安心した入院、治療が受けられるようにしている。定期的な様子伺いを行い情報を得て対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の変化に応じ家族、主治医と話し合いを行っている。状況に応じた対応を家族に伝えている。	入居時に重度化になった場合のホームで出来ること等について入居者、家族に説明している。看取りは行っていないが、その時が訪れるまで、医師や家族の意向を聞いてできる限りの対応を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医の診療時は全職員が交代で対応し知識を得るようにしている。救急救命の講義も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民に協力を依頼し定期的な訓練を行っている。夜間の一人体制も想定し訓練を行っている。	消防署や地域の方の協力を得て、年に2回昼夜を想定した訓練を行っている。車椅子の方の訓練もシュミレーションしている。	豪雨や地震等昨今は思いがけない天災が生じることがあり、地域全体でマニュアル等の準備もそろそろ期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人を大切にし一人一人に応じた話しかけを行っている。支援の方法も様々であるがプライバシーは尊重するよう心がけている。	一人ひとりの人権やプライバシーに配慮し、一人ひとりを尊重した対応を心がけている。職員の質を高めるための勉強会で意見交換を行い、情報を共有化している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が出やすい言葉かけを心がけている。困難な人は表情等で判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝は本人のペースに合わせている。食事や入浴のペースも一人一人に合わせてるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時の服もできるだけ本人に選んでもらっている。定期的に美容師にも来てもらい希望のおしゃれをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材購入や下ごしらえ等を一緒に行っている。それぞれの能力に応じて行っている。	食材の買い出し、下ごしらえ、配膳、片付け等、出来るだけ職員と一緒にしている。食事と一緒に会話を楽しみながら、さりげない支援をしている。健康面では、管理栄養士の助言で献立を作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録し一日を通じて確保できるようにしている。本人の好みも把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや週2回入れ歯洗浄剤につけている。		

グループホーム はまかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い尿意訴えのない入居者も時間を見て誘導している。トイレでの排泄に心がけその人にあったオムツを使用している。	排泄は時間をみて誘導し、チェック表に記録している。出来るだけトイレでの排泄を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を用い一人ひとりのパターンを把握し食事や運動の方法につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日の入浴が出来る体勢は整えているが、今入浴したのを忘れる人がほとんどなので一定の曜日を決めている。	入居者からの入浴希望は少ないため、2日に1回で入浴ローテーションを組んでいる。失禁時等は随時入浴できる様に対応している。入浴し易い環境を作るために声かけ等の工夫をするように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室やソファでくつろげる空間を作っている。その人に応じ屋間部屋で休まれることも支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時付き添ったり薬の説明書を見たりして理解を深めている。特別な指示がある時は申し送りで伝達する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が気持ちよく話せるような話題を持ち出したり外出したりおやつを楽しんだりするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な行事の中で外へ出る機会を増やすようにしている。家族にも協力を呼び掛け支援して貰っている。	地域の行事や町の運動会に参加し、地域と触れ合う機会を作っている。また入居者・家族・職員共同で買い物プラス外食を行う外出も年1回計画し実施している。日頃は散歩や買い物で戸外へ出かけられる様支援している。	

グループホーム はまかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物の値段の話しや買い物話題を取り入れることにより金銭感覚を引き出すようにしている。小銭を所持することにより安心感を持ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いはできるだけ本人に書いて貰うようにしている。職員も月1回は様子を知らせる手紙を書いている。家族より返事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には自分のものだと確認できる物を置くようにしている。トイレや台所は解りやすい表示を付けてくつろぎの場から見渡せるようにしている。	毎朝の掃除は欠かさず実施し、トイレは使用後こまめにチェックするようにしている。入居者は共用空間であるリビングの居心地がよく皆で集まり談笑することでリラックスできている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室を利用し気の合う人とくつろげるようにしている。屋外でも日光浴や外気浴が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人の心身の状況を考慮し部屋の様子を決めている。検討会で相談し合ったり家族に相談することもある。	居室の空調には特に気を遣い入室前に温度調整を行い、快適な空間づくりに心掛けている。部屋のレイアウトは各々の入居者の状態を考慮して、本人が居心地良く過ごされる環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除や洗濯物への関わりは、その人の力量に合わせて支援している。		

## 目標達成計画

作成日: 平成 24年 1月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災発生時の避難訓練は定期的には実施しているが、地震発生時や風水害時の訓練が不足している。	地震発生時や風水害時の具体的なマニュアルを作成し、訓練を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルの作成。</li> <li>・スタッフ間で話し合いを行う。</li> <li>・運営推進会議に計る。</li> <li>・地域に協力を要請する。</li> <li>・消防署や消防団にも協力を要請する。</li> <li>・具体的な訓練を行う。</li> </ul>	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。